

図書館の 過去 現在 未来

この度「図書館だより」は第70号を迎えました!

それを記念して、図書館のこれまでの振り返り、現在を経て、未来を見つめてみました。



Before



Today

1階 図書館入口

昔の写真には20号館が存在していない。耐震のために造られた図書館正面の壁もなかった。これだけでずいぶん雰囲気が違う。



Before



Today

1階 自習室

今では机の仕切りがなくなり、模型や設計図を広げたり、グループで学習する学生の姿が多く見られる。



Before



Today

2階 休憩室

昔に比べて、机も椅子も大きくなり、ゆったり過ごせる雰囲気になっている。



Before



Today

2階 入口

昔は閲覧室の入り口前にカウンターがあった。現在は入室ゲートが設けられ、その横に事務室が作られた。カウンターは閲覧室の中にある。



Before



Today

2階 閲覧室

昔は書架の数がまだ少なく、座席数が多い。今と比べると蔵書数の差は歴然。こうして増えてきたたくさんの図書を、多くの利用者に使ってほしい。



Before



Today

3階 メディアの森

ここは2011年9月にリニューアルされたばかり。机と椅子が整然と並ぶ空間だったのが、今や様々なAV機器をそろえて、利用者に視聴覚サービスを提供している。



図書館の未来 — そのイメージ —

鶴 衛学長



日本にもようやく「実力時代」が到来したように感じる。学歴という紋所で生きていた時代はすでに去ったようだ。今日、大企業が絶対永遠でなくなった事情と同じである。実力が求められる時代が来ていることを肝に銘じよう。

そこで、実力を養うことに心を配らねばならない。では、実力は何かから創られるものだろうか？—私は、「能動的な学習力」を身につけられるか否かが鍵を握っていると考えている。

若者がぶつかる現実を想像してみよう。課題に直面しその解決を図る、あるいは与えられたミッションを実現する、といった場面では、まず、すばやくかつ的確なその取り組み設計図を描く能力が必要になる。

こうした能力は、講義を聞くだけの受け身の学習では十分に養えない。学びの基本は教室にあるが、第二の学習ゾーン・能動的な学びを促す場が不可欠になってきている。

本学においては、ラーニングコモンズやグループ学習ができる共同学習スペース、そして、学習・キャリア・国際交流などの支援ゾーンがすでに置かれている。いずれも自発的な学びができる力の育成をねらったものである。

今日、日本のいくつかの大学に“未来対応型”と思えるような新しい図書館が現れている。その方向はまさに、「能動的学習力」育成に向いている。具体的には、本学では分散しておかれている機能を図書館に集中させることで進化を図っている。

しかし、ハード面(施設)ではそうした対応が見てとれるが、進化した機能を十全に動かすスタッフ(人材)の育成に触れているところは少ないようだ。

こうした点を視野におきながら、本学図書館も進化させなければならないとイメージしている。

図書館年表

1972年01月	図書館専用建物完成 蔵書数 62,885冊
1979年09月	図書館だより創刊
1990年04月	情報センタービル20号館 新築完成 同ビル2、3階を図書館に使用 蔵書数 155,807冊
1991年04月	AVライブラリー開設
2002年09月	芸予地震の影響のため 図書館正面に耐震壁を建設
2003年01月	図書館ホームページ公開
2004年11月	自動貸出機導入
2007年06月	夜間開館スタート
2008年01月	図書館ブログスタート
2008年08月	第1回ブックハンティング開催
2009年04月	講義棟Nexus21内に ラーニングコモンズ新設
2010年07月	図書館キャラクター決定
2010年07月	ポイントカードサービス開始
2011年04月	学生アドバイザー制度開始
2011年09月	AVライブラリーリニューアル 名称「メディアの森」に決定

日々是好日 — 図書館追憶 —

附属図書館長 景山 三平館長

図書館サービス及び資料のデジタル化、ネットワーク化は急速に進んでいます。そんな中、41年間の大学教員生活の最後の3年間を館長として過ごし、楽しく有意義な時間でした。その理由は、有能な職員と二人の気の利いた事務長との出会いと大学の図書館活動への理解の大きさでした。前者は館内の通常のスムーズな業務の遂行、後者は図書館の諸環境などの改善につながりました。私の目標は、デジタルと紙が併走する時代、大学を含めた地域の有意な文化発信基地、即ち、便利施設だけではなく心の栄養素の宝庫として文化保存機能も兼ね備えた交流の場、の構築だったのですが、道半ばです。先般、明治大学の中央図書館を見学する機会を得ましたが、利用環境や空間の間取りの巧妙さなど将来の図書館の姿を垣間見ました。本学でも学生・院生・職員・教員・地域の人々のより多くの利用が得られるよう教育・研究・教養活動支援機能の更なる充実が求められています。図書館の益々の発展を祈念しています。

